巻頭言

このたび jmedmook で「見逃すと怖い血管炎」というテーマを取り上げました。それは，私が厚生労働省科学研究費補助金事業 難治性疾患克服研究事業「難治性血管炎に関する調査研究班」，その後の「ANCA関連血管炎前向き臨床研究」に関わらせて頂いたことから，特にANCA関連血管炎の中でも，わが国に多い顕微鏡的多発血管炎という病気について，地域医療に携わる医師にしっかりと認知してもらうことが重要であることを痛感してきたためです。

本書では，本疾患の最新の分類（呼称），検査・評価方法，治療，予後などについて，わかりやすくまとめてみました。また，多科にわたる「血管炎」の病態を理解してもらうために，その分野のスペシャリストの先生方に，様々な症例を提示しつつ，どこが診断のポイントか，ジェネラリストが日常診療で役立つようコンパクトに解説して頂きました。

「血管炎は難しい病気」というイメージがあるようですが，それはこれまで多くの医師が遭遇したことのない疾患であったことに起因していると思われます。血管炎の好発年齢層での発症が増加しているにもかかわらず，臨床の現場では診断がつかずに治療が遅れ，重症化する患者さんが多くなってきています。

血管炎の多くは突然発症し急速に進行することから，地域の病院や診療所で早期に血管炎を疑い，迅速に診断し，治療も行える体制の構築が求められています。この体制を支えるためには，まず，診療に当たる医師が血管炎という病気をよく理解することが必要不可欠です。血管炎について多くの医師にその知識が普及するまでには時間がかかると思われますが，増え続けている患者さんを救うためにも急務です。

知識を普及させる手段の1つとして「一般社団法人腎臓血管加齢医療研究機構」を設立し，講演会・研究会の開催も行っていますが，さらに本書が出版されることで，血管炎の認知度が高まり，臨床で血管炎の早期診断・治療がなされることを願っています。

最後になりましたが，大変多忙な中，執筆にご協力下さいました先生方に深謝いたします。

企画から3年を経たクリスマスイブに

2014年12月

国際医療福祉大学病院予防医学センター・腎臓内科 教授　湯村和子